保坂智教授の定年退職にあたって

考古・日本史学専攻主任　勝田政治

二〇一七（平成二九）年三月、本学文学部史学地理学科考古・日本史学専攻教授　保坂智先生が定年退職されます。お元気で旺盛なる熱意をもって日々、教育に研究に励んでおられるにもかかわらず、大学の規定により去らねばならないことになりました。退職にあたりまして専攻主任という立場から、一言挨拶を述べさせていただきます。

保坂先生は、敗戦の翌年である一九四六（昭和二一）年に疎開先である東京都あきるの市にお生まれになり、早稲田大学第二文学部を卒業された後、同大学大学院文学研究科修士・博士課程を修了されました。大学院在籍時代から私立本郷高校の非常勤講師を務められ、大学院修了後は東海大学文学部・早稲田大学第一文学部・国士舘大学教養部の非常勤講師を経て、一九八七（昭和六二）年に教養部専任講師として赴任されました。以後、助教授となられ、教養部解体にともなって一九九六（平成八）年、文学部国史学専攻（現考古・日本史学専攻）に移籍され、教授となられました。教養部時代からちょうど三〇年間の長きにわたって、学部・大学院の教育と運営に多大なる貢献をなされ、定年を迎えることになりました。

保坂先生のご専門は日本近世史でありまして、後掲の「保坂智先生　主要業績一覧」に示されているように膨大な著書や論文を著されています。日本近世の民衆史、とりわけ百姓一揆と義民の研究では第一人者の地位を占められ、二〇〇六（平成一八）に代表的著作である『百姓一揆と義民の研究』（吉川弘文館）を上梓されています。そ

して、同書により、早稲田大学から博士（文学）の学位を授与されています。

四六年前の一九七一（昭和四六）年の処女論文以来、愚直にも百姓一揆と義民の研究を一途に継続されてきた研究姿勢には、常々敬服しております。また、保坂先生はパソコンによる歴史研究の先駆者でもあります。『百姓一揆研究文献総目録』（三一書房）や『近世義民年表』（吉川弘文館）などの優れた基礎的研究は、パソコンを駆使したお仕事の代表例であります。

こうした研究活動とともに、大学院・学部での教育活動においても特筆すべきものがあります。大学院では、人文科学研究科委員長（現研究科長）として課程博士の規程を整備され、人文科学研究科の課程博士第一号は、保坂ゼミ生のなかから誕生しています。学部では、専攻主任時代に大胆なカリキュラム改革を断行しています。一四年前の改革で誕生したカリキュラムは先進性を持っており、二〇一九（平成三一）年度に予定されている学部改革にも基本的に継承されることになっています。そして、保坂先生は何よりも教えることが好きなようです。学生と真剣に渡り合う姿はすごみがありますが、そこには限りない愛情があふれています。

最後に私的なことに触れることをお許し下さい。筆者は、早稲田の大学院での保坂先生の後輩にあたります。所属ゼミは異なりましたが、修士のときの博士であり、仰ぎ見る存在でした。筆者が博士課程の受験にあたって、古文書読解の手ほどきを受けたのが保坂先生でした。さらに、縁あって筆者が教養部の専任教員に採用されるにあたって、教養部において強く推していただいたのも保坂先生でした。以後、教養部・文学部・人文科学研究科を通じて筆者は、常に保坂先生の背中を追いかけてきたというのが実情でした。

保坂先生の学生に向ける熱意を受け継ぐことをお約束しながら、拙い挨拶を終えたいと思います。保坂さん、長い間ご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。